

令和4年度

がん教育総合支援事業 事業成果報告書

地方公共団体名

山梨県

1. 事業の具体的内容について

(1) 自治体における取組

① 連絡会について

1. 構成員 全員で 32人

【内訳】

- (委員) ○学識経験者・・・大学教授等3人(社会医学、血液・腫瘍内科学、歯科口腔外科学)
 ○がん関連団体・・・患者支援団体等5人
 ○医療関係者・・・医師会1人 歯科医師会1人 薬剤師会1人
 看護協会・がん相談支援センター1人
 検診機関1人 理学療法士会1人 作業療法士会1人 言語聴覚士会1人
 ○学校関係者・・・小学校推進校2人 中学校推進校2人 高等学校推進校2人
 養護教諭代表1人 保健主事代表1人
 ○教育委員会・・・学校保健技師1人 市教育委員会2人
 ○県知事部局・・・福祉保健部健康増進課1人
 ○県教育委員会・・・保健体育課4人
 (事務局) ○県教育委員会・・・保健体育課3人

2. 開催時期、検討内容

	実施期日	内容等
第1回 がん教育推進連絡会	令和4年6月27日(月)	(1) 文部科学省がん教育総合支援事業について (2) 山梨県がん教育総合支援事業について (3) その他
第2回 がん教育推進連絡会	令和5年2月9日(木)	(1) 事業の取組報告 (2) がん教育推進校実践報告 (3) 事業の成果と課題について (4) その他

② 教育委員会としての取組

ア がん教育指導者研修会の開催

実施期日：令和5年1月31日(火)		対象：教職員・がん教育外部講師	
講義		聖心女子大学現代教養学部教育学科教授 聖心女子大学グローバル共生研究所長 聖心女子大学 副学長 植田 誠治 氏 「学校におけるがん教育の考え方・進め方」	
がん教育 推進校 実践報告	小学校部会 (オンライン)	甲府市立甲運小学校	教諭 清水 光 氏
		【外部講師】 サンスマイルえがお	代表 清水 美智子 氏
	中学校・ 高等学校部会 (参集)	甲斐市立竜王中学校	教諭 宮原 知佳 氏
		山梨県立吉田高等学校	教諭 渡邊 勇人 氏
		【外部講師】 山梨県厚生農業協同組合連合会 山梨県厚生連健康管理センター 企画広報部 健康企画課 課長・保健師	山下 真紗代 氏

イ がん教育外部講師者研修会の開催（オンライン研修、動画限定公開）

実施期日：令和4年7月22日（金）		対象：がん教育外部講師	
講義	山梨大学大学院総合研究部 医学域社会医学講座 教授 山縣 然太朗 氏 「外部講師の心得と児童生徒に 学んでほしいこと」	山梨大学医学部 血液・腫瘍内科学講座 教授 桐戸 敬太 氏 「がん治療医の立場から」	NPO 法人 がんフォーラム山梨 理事長 若尾 直子 氏 「義務教育としてのがん教育 外部講師の役割」

ウ がん教育推進校における取組

- ・がん教育推進校（小学校1校・中学校1校・高等学校1校）を指定、授業公開及び授業検討会
- ・取組内容の詳細については、「(2) がん教育推進校における取組」に記載

エ がん教育外部講師一覧表の更新・申請の手続き周知

オ 事業成果の普及

- ・山梨県教育委員会主催のがん教育研指導者研修会において、がん教育推進校による実践報告
- ・山梨県がん教育総合支援事業報告書を作成し、各学校、関係機関等に配付
- ・がん教育リーフット（本県で作成）を修正・更新し、各学校に配付
- ・保健体育課ホームページにがん教育に関する情報を掲載

③ 保健部局や地域の専門機関等との連携

- ・県がん対策推進協議会に出席し、がん教育総合支援事業における取組、学校の取組等について共有した。
- ・本県で作成しているがん教育リーフレット内の統計データについて、福祉保健部と連携しながら確認・更新した。

(2) がん教育推進校における取組

○がん教育授業準備会 令和4年9月13日（火）

	甲府市立甲運小学校	甲斐市立竜王中学校	山梨県立吉田高等学校
実施期日	令和4年11月28日（月）	令和4年10月19日（水）	令和4年11月14日（月）
公開方法	オンライン	参集	参集
	※学級担任と外部講師による TT	※授業公開日は指導者のみ ※11月18日外部講師による講演会（3学年対象）	※学級担任と外部講師による TT ※11月9日外部講師による講演会（1学年対象）
	対象：5年2組 教科：特別活動（学級活動） 題材名：がんから学ぼう！ 自分にできること 指導者：夏目 周一郎 外部講師：サンスマイルえがお 清水 美智子 氏	対象：3年3組 教科：保健体育（保健分野） 単元名：個人の健康を守る 社会の取組 指導者：宮原 知佳 外部講師：山梨県厚生連 健康管理センター 保健師 原 美咲 氏	対象：1年1組 教科：保健体育（科目保健） 単元名：現代社会と健康 指導者：渡邊 勇人 外部講師：山梨県厚生連 健康管理センター 保健師 小佐野 亜樹 氏
がん教育 推進連絡会 委員 ※授業検討会 参加者	NPO 法人 がんフォーラム山梨 理事長 若尾 直子 サンスマイルえがお 代表 清水 美智子	NPO 法人 がんフォーラム山梨 理事長 若尾 直子 山梨県厚生農業協同組合連合会 課長 志村 直樹	NPO 法人 がんフォーラム山梨 理事長 若尾 直子 山梨県厚生農業協同組合連合会 課長 志村 直樹

山梨県厚生農業協同組合連合会 課長 志村 直樹 甲府市教育委員会 指導主事 山田 睦子 甲府市教育委員会 学力向上専門員 加賀美 猛 甲斐市教育委員会 指導監 金丸 徹 保健体育 課長 金井 哲也 保健体育課 指導主事 清水 宏次 事務局	サンスマイルえがお 代表 清水 美智子 甲斐市教育委員会 指導監 金丸 徹 保健体育 課長 金井 哲也 保健体育課 指導主事 渡辺 健太郎 事務局	サンスマイルえがお 代表 清水 美智子 保健体育課 課長 金井 哲也 保健体育課指導主事 六水 史彦 事務局
---	---	--

◇外部講師との連携について～がん教育推進校から～◇

- ・当日までの丁寧な打ち合わせは、授業のイメージを共有し、効果的な授業へとつながる。
- ・外部講師の立ち位置、役割を明確化することで、専門分野を中心に授業を展開することが可能となる。
- ・外部講師の助言が、児童生徒の張り合いや自信につながる。

【課題】

- ・授業のねらいや内容に沿った外部講師の活用
- ・講師と児童生徒が密接に関われるような工夫や声かけ、場面設定 → 講師とのより綿密な打ち合わせと、生徒への事前指導の重要性

2. 事業の達成度について

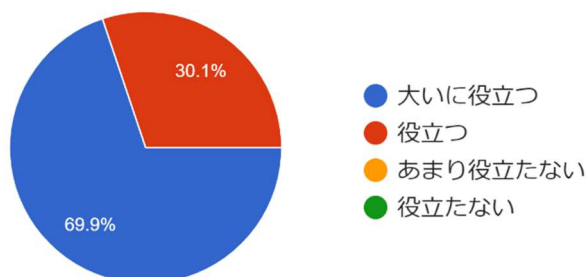
(1) がん教育推進連絡会の実施

がん教育推進連絡会において、学校におけるがん教育について意見を交換したり、成果や課題を共有したりした。終了時のアンケート結果では、「学校の取組に対して連絡会は十分に支援が行えた」と全員が回答した。「情報を児童生徒に正しく伝えていくためのポータルサイトのようなものをつくれるとよい」「様々な職種とのネットワークを構築していきたい」といった前向きな御意見をいただいた。一方、外部講師を活用するに当たっての各学校の予算を確保してほしいという課題も挙げられた。

(2) がん教育指導者研修会の開催

参加者アンケートの結果

○研修会は、学校におけるがん教育の推進に役立つ内容だったか。



〈参加者の感想〉

- ・がん教育の必要性について改めて学ぶことができた。学校保健に関わる養護教諭、保健主事だけではなく、管理職や教職員にもその必要性を理解してもらうことが大切だと思った。
- ・がんについての正しい知識を知ることが大切だと改めて思った。教師が正しい知識を子供たちに伝えていくために外部講師と連携していくことも考えていきたいと思う。
- ・がん教育の目標の意図を理解することができた。目指す子ども像が明確になり、がん教育の重要性を改めて実感した。

- ・がんを題材に取り入れることで、多様性や共生の学びにもつながることが理解できた。外部講師の情報をたくさんいただくとありがたい。
- ・本校では養護教諭ががん教育を6年生に対して行った。その際、大いに参考になったのは文部科学省から出されている補助教材だった。指導後は、時間の足りなさや子供自身、家族への配慮について課題を感じたが、今回の研修で、その課題を今後生かす手立てを学ぶことができた。今後は、やはり外部講師を招いて指導していくこと、招く前に担任や

養護教諭からも指導し、より良く外部講師の方の経験や知識を子供たちに学ばせていくことを実践していきたい。

- ・がん教育の取組により、がんという病気を正しく理解し、健康と命の大切さについて主体的に考えることが目的となるが、更にはこの教育を通して、病気とは何かを知り、どのようにすれば病気を予防できるかを考え、実践行動する。生涯にわたるヘルスプロモーションの獲得の一助につながるような対応が大切と思う。この事は歯科の健康教育にも言えることで、歯・口の健康教育を通していかに病気というものを理解し、将来の健康に結び付けられるかが大切だと思う。

(3) がん教育推進校における取組

	事業実施前	事業実施後
がん検診を受けられる年齢になったら、検診を受けようと思う	<p>3.1% 3.6% 0.5% 69.1% 23.7%</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ そう思う ■ どちらかといえばそう思う ■ どちらかといえばそう思わない ■ 思わない ■ 無回答 	<p>1.0% 12.4% 3.1% 83.5% 0.0%</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ そう思う ■ どちらかといえばそう思う ■ どちらかといえばそう思わない ■ 思わない ■ 無回答
がんになっている人も過ごしやすい世の中になりたい	<p>1.0% 0.5% 0.0% 84.5% 13.9%</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ そう思う ■ どちらかといえばそう思う ■ どちらかといえばそう思わない ■ 思わない ■ 無回答 	<p>0.5% 4.6% 1.0% 93.8% 0.0%</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ そう思う ■ どちらかといえばそう思う ■ どちらかといえばそう思わない ■ 思わない ■ 無回答
がんと健康について、まずは身近な家族から話ろうと思う	<p>4.6% 0.0% 64.9% 22.7% 7.7%</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ そう思う ■ どちらかといえばそう思う ■ どちらかといえばそう思わない ■ 思わない ■ 無回答 	<p>3.1% 3.6% 0.0% 78.4% 14.9%</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ そう思う ■ どちらかといえばそう思う ■ どちらかといえばそう思わない ■ 思わない ■ 無回答

がん教育推進校（3校）におけるアンケート結果から、実施後にがんやその予防について、主体的に考える児童生徒が増えた。また、健康への関心や健康に対する意識の向上も見られた。

3. 今後の課題及びその取組の方向性（今回の事業により新たに見えた課題など）

- ・学校教育全体を通じた教科等横断的な視点でのがん教育（カリキュラム・マネジメント）
- ・学校におけるがん教育の実践事例の積み上げ、各学校への周知
- ・単発に終わらず、継続した学校におけるがん教育の展開
- ・調べ学習を取り入れる場合は、児童生徒が正しいで情報を得ることが大切。信頼できる情報源を指導者が示すこと。
- ・教職員のがんに関する知識や理解の向上

4. モデル校以外での取組について（課題や今後整理すべき事項など）

- ・外部講師を活用したがん教育の実施率を今後も伸ばしていく。
- ・外部講師を活用するに当たっての各学校の予算確保
- ・県が作成している外部講師一覧表や、外部講師の活用方法についての更なる周知